

# 平成 27 年度 事業 報告 書

(平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで)

平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日までの期間において、一般社団法人日本分析機器工業会が実施した事業について、次のとおり要約して報告致します。

## I. 一般社団法人移行に伴う継続事業の終了について

一般社団法人移行時に確定した公益目的財産額 (84,471,953 円) を継続事業として実施してきた結果、平成 26 年度をもって残高を全て費消したので、継続事業報告を提出し、平成 27 年 11 月 24 日付けで公益目的支出計画の実施完了確認を受けた。

## II. 会員の異動

会員の異動は、別紙 1 のとおり。平成 27 年度における正会員の入会は 3 社、退会が 4 社、賛助会員の入会は 3 社、退会が 6 社で会員総数は 185 社となった。

26 年度期末会員数 189 社 (正会員 113 社、賛助会員 76 社)

27 年度期末会員数 185 社 (正会員 112 社、賛助会員 73 社)

## III. 総会、理事会等

### 1. 総会

一般社団法人平成 27 年度定時総会を次のとおり開催した。

(1) 日 時 : 平成 27 年 5 月 13 日 (水) 14 時 00 分~15 時 00 分

(2) 場 所 : 霞山会館 牡丹の間

(3) 出席者 : 正会員 113 社のうち出席 79 社 (うち委任状 57 社)

(4) 承認された議案は次のとおり。

第 1 号議案 平成 26 年度事業報告書及び平成 26 年度決算報告書について

第 2 号議案 理事及び監事の選任について

(5) 報告案件

平成 27 年度事業計画及び収支予算について

### 2. 理事会

(1) 開催状況

第 1 回 平成 27 年 4 月 15 日 (水) 11 : 30~12 : 30

第 2 回 平成 27 年 5 月 13 日 (水) 13 : 00~13 : 50

臨時理事会 平成 27 年 5 月 13 日 (水) 16 : 00~16 : 10

第 3 回 平成 27 年 7 月 15 日 (水) 12 : 00~14 : 00

第 4 回 平成 27 年 9 月 2 日 (水) 8 : 15~ 9 : 00

第 5 回 平成 27 年 10 月 14 日 (水) 12 : 00~14 : 00

第 6 回 平成 27 年 11 月 25 日 (水) 16 : 00~17 : 00

第 7 回 平成 28 年 1 月 13 日 (水) 15 : 30~16 : 30

第 8 回 平成 28 年 3 月 16 日 (水) 15 : 30~17 : 30

## (2) 主な決定事項

- 1) 平成 26 年度事業報告及び収支予算案の承認 (第 1 回)
- 2) 平成 27 年度定時総会提案議案の承認 (第 1 回)
- 3) 「JAIMA 市場統計管理システム運用規程」の制定及び工業会市場統計システムの改良承認 (第 1 回)
- 4) 創立 55 周年記念表彰者の決定 (第 1 回)
- 5) 会長、副会長、専務理事の選任について (臨時理事会)
- 6) JASIS 2015 の開催覚え書きの承認 (第 2 回)
- 7) 2015 年「分析機器・科学機器遺産」の認定の決定、(第 3 回)
- 8) JASIS 2016 の開催概要の承認 (小間料等の改訂) (第 5 回)
- 9) 平成 28 年度の主要会議開催日程について (第 5 回)
- 10) マイナンバー制度への対応について (基本方針策定) (第 6 回)
- 11) 平成 28 年度事業実施方針の決定 (第 7 回)
- 12) ASEAN 人材育成プログラム事業の結果及び今後のアジア展開事業の方向について (第 7 回)
- 13) ISO/TC212 第 22 回総会及びWG 会合日本開催への協力について (第 7 回)
- 14) 会費規程の改正について (第 8 回)
- 15) 講師謝金規程等の制定について (第 8 回)
- 16) ADP 特別委員会に代わる「ライフサイエンス市場研究会」の設立について (第 8 回)
- 17) 分析機器・科学機器遺産認定制度延長実施について (第 8 回)
- 18) 平成 28 年度事業計画及び収支予算の承認 (第 8 回)
- 19) 高圧ガス保安法に関する取組み及び日本分析機器工業会規格 (JAIMAS) の制定について (第 8 回)

## 3. 代表者懇談会

平成 28 年 1 月 13 日 (水) 16 時 40 分～17 時 30 分、パレスホテル東京で会員 37 社の出席を得て開催した。栗原会長の挨拶後、平成 27 年度事業中間報告を専務理事、禰寝企画戦略会議議長から総括説明した。代表者懇談会に引き続き、235 名の参加者を得て新年懇親会を開催した。

## IV. 平成 27 年度において行った事業の概要

### 1. 分析機器に関する調査研究

- (1) 分析機器工業に関する調査 (統計委員会、事務局)
  - 1) 分析機器工業の経営実態調査 (正会員を対象に悉皆調査、四半期毎)
  - 2) 出荷額、受注額等の需給動向調査 (主要正会員対象、月次)
- (2) 分析機器の生産、流通、貿易及び利用に関する調査 (統計委員会、事務局)
  - 1) 会員を対象に四半期毎に生産・輸出入の動向調査
  - 2) 財務省貿易統計から分析機器の輸出入額の国別集計
- (3) 技術動向調査 (技術委員会)

- (4) 環境関連技術動向調査（環境委員会）
- (5) 主要労働条件に関する調査・研究（労務委員会）
- 2. 分析機器に関する情報の収集及び提供
  - (1) 分析機器の手引きの発行・頒布（技術委員会）
  - (2) 環境分析関連資料の充実及び情報の提供（環境委員会）
  - (3) 国際水銀条約関連情報の収集・提供（環境委員会）
  - (4) 分析機器に係る欧州規制等関連情報の収集・提供  
(RoHS、REACH、WEEE、EuP 等、環境委員会)
  - (5) 人事・労務管理上の課題に関する情報交換、意見交換会の実施。（労務委員会）
  - (6) 知的財産権の管理推進に関する会員企業相互の情報交換会の開催（知財委員会）
  - (7) 輸出管理に関する情報収集と提供（国際委員会）
  - (8) 海外規制，国内薬事法の動向に関する情報収集発信（医療機器委員会）
  - (9) 機関誌 JAIMA Season の充実（広報委員会）
  - (10) JAIMA Web サイトのコンテンツ更新、充実（広報委員会）
- 3. 分析機器に関する規格、基準の策定及び標準化の推進
  - (1) JIS K 0117「赤外分光分析方法通則」の改正作業を実施した。（環境委員会）
  - (2) 他団体の規格作成委員会等への工業会からの参加（環境委員会）
  - (3) 公益社団法人日本医師会実施の外部精度管理調査事業への支援（医療機器委員会）
  - (4) 体外診断用医療機器の安全に関する IEC 規格の普及及び JIS 化（医療機器委員会）
- 4. 分析機器に関する展示会の開催
  - (1) 日本科学機器協会と協力して JASIS 2015 を実施（展示会委員会）
  - (2) 新技術説明会、コンファレンスの開催（展示会委員会、技術委員会他）
  - (3) 「JASIS 2016」（第 5 回）の開催準備（展示会委員会）
- 5. 分析機器に関する講演会等の開催
  - (1) 東北大学の分析機器基礎講座「素材評価学」支援（技術委員会）
  - (2) 日韓技術交流セミナー（開催）（技術委員会）
  - (3) 環境規制関連講演会の開催（環境委員会）
  - (4) 労務・人事担当者に対するセミナー開催（労務委員会）
  - (5) 知財関係のセミナー開催（知財委員会）
  - (6) 医療機器公正取引競争規約インストラクター養成研修の実施（医療機器委員会）
  - (7) 「法規制セミナー」及び「先端診断イノベーションセミナー」を開催（医療機器委員会）
- 6. 分析機器に関する内外関係機関との交流及び協力
  - (1) 政府関係機関
    - 1) 計量法、薬事法、安全保障貿易管理令、環境公害関係法令等分析機器に関連する法令の施行及び関連する行政施策への協力並びに当該関連情報の会員への提供、周知徹底（各委員会、事務局）
    - 2) 工業会作成統計等の経済産業省への提供。（統計委員会、事務局）
    - 3) 特許庁審査官との情報交換。（知財委員会）
    - 4) 経済産業省と協力して「安全保障貿易管理説明会」の開催。（国際委員会）

5) 医療機器業公正取引協議会日本分析機器工業会支部を通じ医療機器の公正取引に関する指導、相談、普及活動実施。(医療機器委員会)

(2) 海外機関との交流・協力

1) Pittcon との連携 (IC 特別委員会)

2) BCEIA (中国) 等との連携強化(国際委員会)

3) JASIS に併催された国際コンファレンスを企画運営。(技術委員会)

4) ALDA、GAMBICA 等海外関連諸団体との交流活動の推進と連携強化。  
(国際委員会)

5) ALDA、EUROMII 等と受注統計データを交換、会員への提供。(国際委員会)

6) EDMA/AdvaMed/オーストラリア/臨薬協他が参加する GDIAM、フォーラムに参加した(5月:日本)(10月:ブリュッセル)。IVD の価値向上策、IMDRF、コンパニオン診断、欧米での承認・診療報酬の状況他について情報を交換し、今後グローバルグループとしてホームページを立ち上げることを確認した。(医療機器委員会)

7) EDMA (欧州) 等の IVD 工業会との交流。(医療機器委員会)

(3) その他機関との交流

1) 先端的研究所等との交流。(環境委員会)

2) (一社)医療機器産業連合会の活動へ参画し、工業会の意見の行政への反映を図るほか、薬事法や欧州指令等に関し会員への情報提供、調査等を行う。(医療機器委員会)

3) 体外診断用医療機器に関し(一社)臨床検査薬協会と連携、「IVD-MD の地位向上WG」活動を開始(企画戦略会議、医療機器委員会)

7. その他本会の目的を達成するために必要な事業

(1) 当工業会に関係する団体主催の協賛名義、後援名義等の付与。(事務局)

(2) 分析機器に関する国内及び輸出向け団体PL保険制度の実施。(事務局)

(3) 顕彰等に関する事業

1) 国、公共機関、団体等が行う叙勲、褒章、大臣表彰その他の表彰制度への候補者の推薦及び資料作成等支援。

2) 先端分析技術 JAIMA 機器開発賞への協力。

(4) 高校生向け講習会の開催(技術委員会)

(5) JASIS 2015 の応募状況、セミナー情報、開催規模状況、社会性、公共性のある JAIMA 活動状況をタイムリーに発信し媒体側に知らしめる。(広報委員会)

(6) 分析機器・科学機器遺産登録認定制度を実施し、2015 年度認定を 16 件行った。  
(企画戦略会議、事務局)

V. 委員会活動

1. 企画戦略会議

1. 企画戦略会議

(1) 各常設委員会に参加し、各委員会が概ね当初計画どおりに活動していることを確認するとともに各委員会事業の成果を取りまとめ、理事会、代表者懇談会等で定期的に報告した。

- (2) 常設委員会から提出された平成 28 年度事業計画（案）及び収支予算（案）について調整し第 8 回理事会に上程した。
- (3) 分析機器・科学機器遺産認定事業を実施した。
- (4) JASIS 中期戦略検討特別委員会で JASIS の中期的課題を議論し、JASIS 2016 の概要及び出展料改訂について理事会に上申した。
- (5) ADP 特別委員会で工業会の先端診断分野への体制を検討し結果報告を行った。
- (6) IC 特別委員会にてピッツコンを含めた国際会議の効率的な運用の検討を行い、結果報告を行った。
- (7) 正副委員長会議を開催し、各委員会の情報共有化を図るとともに委員会共通の課題につき意見交換を行った。

## 2. 技術委員会

### (1) JASIS 2015 にて併催された JASIS コンファレンスの企画運営

参加団体：30 団体（前年 28 団体）、 テーマ数：52 テーマ（前年 51 テーマ）、  
参加者延べ人数：4,070 名（前年 4,320 名）

#### 1) JAIMA シンポジウム

9 月 4 日：JAIMA シンポジウム 調査報告「ASEAN における産業開発を支援する  
高度な機器分析の人材育成プログラムについて」

#### 2) 先端診断イノベーションフォーラム

従来 JAIMA フォーラムと題し、最新のトピックスを紹介するプログラムを開催  
していたが、これに代わる先端診断イノベーションゾーンとのコラボレーショ  
ン企画を 4 部構成として開催した。

#### 3) JAIMA セミナー

東京コンファレンスで行われていた初心者を対象とした講習会系プログラムを  
継承したもので、昨年と同様に 11 講座で実施した。

#### 4) International Conference Session

「アジアテクニカルフォーラム」、「U. S. シンポジウム」、「英国王立化学会 (Royal  
Society of Chemistry (RSC) 東京コンファレンス))」、「韓国フォーラム(1)」、「韓  
国フォーラム(2)」、「中国フォーラム」の 6 コンファレンス (7 セッション) を  
開催した。

#### 5) 新技術説明会のプログラム編成と新技術動向の原稿作成

分離分析、光分析、質量分析に関する内容が多く、分野別ではナノ・材料、バ  
イオ、環境関連の発表が多く、特にナノ・材料は、全体の 39% を占める重要な  
分野となっている。

### (2) 日韓技術交流セミナーの開催

韓国大韓化学会との技術交流で、2010 年に締結した大韓化学会との覚書に基づ  
き、韓国と日本の交互開催で運営しているもので、今年度が第 6 回となった。

大韓化学会秋季年会 (10/14-10/16) にて、下記内容の Session を開催した。

・場所：大邱 (テグ) EXCO (国際展示場)、・日程：2015 年 10 月 16 日 (金)

・テーマ：Diverse Technologies of Spectroscopy-Joint Symposium with JAIMA

(日本 3 件、韓国 3 件)

(3) 東北大学における分析機器基礎講座の開催に協力

東北大学大学院 環境科学研究科修士 1 年生 を対象として、昨年度に引き続き 4 月から 7 月までの毎週 1 回 (90 分授業)、14 週にわたる講義を 当工業会会員企業の技術者が中心になって担当した。講義は好評であり、150 名の参加を得た。

(4) 技術動向調査

1) 分析技術アジア展開検討小委員会の活動

HIDA (一般財団法人海外産業人材育成協会) からの受託事業「ASEAN における産業開発を支援する高度な機器分析の人材育成プログラム策定業務」を実施し、タイのバンコク、ベトナムのハノイとホーチミンでの技術セミナーを成功裏に開催でき、平行して国内の留学生の実態調査 (2-3 月) と意見交換会 (7 月) も実施し、それらの成果を JASIS 展にて報告 (9 月 4 日、添付資料参照) し、報告書にまとめて HIDA へ提出した (10 月)。

アジア展開検討小委員会活動を通じて寄せられた期待に応えるために、技術委員会の下に新たに小委員会を新設し、本小委員会は終了とした。

2) Pittcon 2016 における技術動向を調査した。

(5) 高校生向け講習会の開催

7 月 23 日、参加者 65 名、協力会員企業 13 社を得て日本科学未来館にて開催した。なお、サマーサイエンススクール事業の成果を「キャリア教育アワード」及び「化学コミュニケーション賞 2015」に応募したが、選外であった。次年度以降も継続的に応募する。

(6) 「分析機器の手引き」

JASIS 2015 にて 500 冊/日を配布完了。冊子の電子化 (CD-ROM) 等に関するアンケートを実施。情報収集用には CD-ROM、教育用には冊子が適するとの結論に至った。電子化と多言語化に向けた企画をスタートした。

(7) 他団体・機関との連携

- 1) 4 月 22~24 日開催の P-MEC JAPAN にて JAIMA セミナーを開催。
- 2) 分析化学討論会公開講座への参加。
- 3) 日本化学会 CSJ 化学フェスタ 2015 の産学官 R&A 企画へ JAIMA ブースを出展
- 4) 産総研が実施する「計測・計量標準分野技術戦略マップ」の改訂作業に参加。
- 5) JASIS 2015 にて、産総研、日本質量分析学会関東支部、英国王立化学会、大韓化学会等多数の他団体との連携強化

### 3. 環境委員会

(1) 分析機器に関する規格・基準作成 (規格標準化小委員会)

下記 JIS 通則改正と分析機器工業会規格 JAIMAS の新規制定及び外部団体委員会への委員派遣等を実施した。

1) 平成 27 年度 JIS 改正原案作成事業

JIS K 0117「赤外分光分析方法通則」に関し、6 回の委員会を開催し、改正原案作成。昨年度原案作成の JIS K 0215「分析化学用語 (分析機器部門)」は 3

月 22 日付で改訂版発行。

2) JAIMAS 新規原案作成

JAIMAS(熱分析装置)作成中。平成 28 年度継続

3) 規格標準化に係る関連団体への参加による規格・標準化への協力。

- ①環境測定 JIS 体系の構築戦略委員 (含金属分科会)
- ②IEC/TC111-WG3 対応国内 WG
- ③ISO/TC45/SC2/WG5 化学試験法分科会
- ④ISO/TC146/SC6 国内対策委員会
- ⑤ISO/TC229&TC281 国内審議委員会
- ⑥AS-NITE 技術委員会
- ⑦QMS 規格委員会
- ⑧日本工業標準調査会 (JISC) 化学・環境技術専門委員会
- ⑨日化協/技術委員会/化学標準化WG
- ⑩日本環境測定分析協会 JIS 原案作成
- ⑪試薬協会関連 JIS 委員会
- ⑫アルキル水銀測定法国際標準化検討委員会 (ISO/TC147 への NWIP の準備)

(2) 環境規制関連の情報提供と行政施策への協力 (環境規制小委員会)

環境規制関連セミナー (会員対象、受講料無料) を下記のとおり 4 回開催したほか、環境規制小委員会にてブラッセル駐在中井章仁氏、佐々木晋也氏 (堀場製作所) から、欧州規制の最新動向について 2 回報告を行った。また、上記セミナーの内容を平成 27 年度環境委員会主催「JAIMA 環境規制関連セミナー&欧州規制小委員会特別セミナー」資料集として CD にまとめ、会員に配布した。

1) 第 1 回環境規制関連セミナー

日 時：平成 27 年 8 月 5 日 (水) 出席者：16 名  
講 師：国立研究開発法人 産業技術総合研究所 特別顧問 小野晃氏  
演 題：「ナノテク標準化 (ISO/TC229) の成果と今後の動向」

2) 第 2 回環境規制関連セミナー

日 時：平成 27 年 11 月 30 日 (月) 出席者：21 名  
講 師：関西学院大学工学部・大学院理工学研究科教授 千葉光一氏  
演 題：「Global標準化—SI単位の再定義と化学標準のトレーサビリティ」

3) 第 3 回環境規制関連セミナー

日 時：平成 28 年 1 月 29 日 (金) 出席者：39 名  
講 師：一般財団法人日本品質保証機構マネジメントシステム部門京野昌夫氏  
演 題：「2015 年版 ISO9001/14001 への移行」

～貴社のマネジメントシステムはこう変わる～

4) 第 4 回環境規制関連セミナー

日 時：平成 28 年 2 月 15 日 (月) 出席者：23 名  
講 師：一般社団法人電子情報技術産業協会北京事務所所長 月舘実氏  
演 題：「中国の環境規制の動向」～発展する中国、進展が求められる  
環境保護政策～

(3) 国際規格関連事業

1) Category8&9 関連工業会連絡会の参加団体として 2016 年 2 月 9 日(火) 環境セミナー開催他。

2) IS09001/14001 関連セミナーの開催。

(4) 環境分析関連資料のデータベースの構築ほか(技術・情報小委員会)

分析機器の手引きに掲載の「環境汚染物質別分析機器一覧表及び関連 JIS 一覧表」、「関連法規」、「ポジティブリスト試験方法」等の見直し・改定を実施した。

(5) Pittcon 2016 に参加し、第 8 回 Japan Symposium 2015 への支援及び JASIS2016 における第 6 回 U.S. Symposium への招聘に協力し、Pittcon と工業会の連携に寄与した。

(6) JASIS 2015 の支援

JASIS コンファレンスに対し支援した。

(7) 見学会の実施

他の委員会委員にも案内して見学会を 3 回開催した。

1) 見学先：JAXA 調布航空宇宙研究センター(調布市)

日 時：平成 27 年 12 月 1 日(火)

2) 見学先：虹の下水道館及び有明水再生センター(東京都江東区)

日 時：平成 28 年 12 月 26 日(金)

3) 見学先：島津製作所創業記念資料館(京都市)

日 時：平成 28 年 3 月 18 日(金)

(8) 「産業と環境」2015 年 8 月号に「分析機器産業の動向と将来展望」110 ページ及び日刊工業新聞第 2 部：地球環境に「環境用分析機器の市場・技術動向ー最新の光化学オキシダント関連動向」を掲載した。

4. 労務委員会

(1) 委員会を 4 回開催し以下の活動を実施した。

1) 賃上げ、夏季賞与支給に関する情報交換

2) 新卒採用活動に関する情報交換

3) 退職給付制度に関する情報交換

4) その他、会員相互の情報交換

(2) 「職場でのハラスメントへの対応・対策セミナー」を開催した。

日時：平成 27 年 11 月 13 日(金)

場所：工業会会議室

講師：弁護士 鈴木 郁子 氏

(3) 異業種交流会を開催した。

伊那食品工業株式会社を訪問し、同社の経営理念「年輪経営」の考え方や人事制度のあり方等について、お話をうかがった。

日時：平成 28 年 2 月 19 日(金)

場所：伊那食品工業株式会社 本社

面談者：総務人事部次長 吉川 明 氏



## 5. 知的財産委員会

### (1) 委員会を5回、小委員会を9回開催した。

- 1) 活動方針の確認と各社の知的財産権に関する情報交換を行った。(平成27年5月8日、於、日本電子(株)大阪支店)
- 2) 特許庁との交流会を実施した。(平成27年9月11日、於、工業会事務局)
- 3) 海外知財調査のため、ドイツとスイスに往訪し、世界知的財産所有権機関、欧州特許庁、世界保健機関、シーメンス、マックスプランク研究所等を訪問し、知財状況の調査と意見交換を行うとともに現地特許事務所とも交流し、実務の状況等につき、情報交換を行った。(平成27年10月26日～平成27年10月31日)
- 4) 株式会社安川電気の福岡工場を訪問し、他業種における知財問題等につき意見交換を行った。(平成27年12月11日)

### (2) 小委員会活動(調査・実務合同小委員会)9回開催

知的財産権に関連する実務を推考する上で有用な知識及び情報の共有化を図り、併せて会員企業の若手実務者のスキルアップを図るため、同小委員会を設置した。月1回のペースで小委員会を開催し、先端診断におけるCPCとFI及びFタームの比較に関する調査研究異議申立て、契約管理に関する実務情報交換、外国出願に関する実務情報交換などを行った。

### (3) 講演会の開催

小委員会活動の一環として以下のとおり実務的で新鮮な内容の講演会を開催した。講演後の意見交換の場においても活発な質疑応答が行われた。

日時：平成28年2月26日(火)15:00-17:00

場所：工業会会議室

講師：テルモ株式会社取締役上席執行役員 昌子久仁子 氏

演題：「企業における管理部門」

## 6. 国際委員会

### (1) 海外友好団体との連携強化

- 1) 欧米友好協力団体 Pittcon Committee、ALDA(米国)との連携強化と交流を行った。
  - ① 2016年Pittcon 2016期間中にPittcon Committee、米国工業会ALDAとの情報交換を実施。JAIMA-ALDA-Eurom II 合同会議はanalytica 2016にて開催予定。
  - ② 日米欧3団体による受注統計データの交換を行った。
- 2) アジア友好協力団体(マレーシア ECMI ITE、台湾 TEEMA、中国 CAIA/BCEIA、シンガポール Separation Science、インド UBM India、ベトナム VINALAB/VINATEST、韓国 KSIIC)との連携強化と交流を行った。
  - ① 韓国、タイ、中国、ベトナム友好協力団体の協力によりJASIS 2015にてアジアテクニカルフォーラムを開催。

- ② 中国分析測試協会の協力により JASIS 2015 にて中国フォーラムを開催。
  - ③ 中国分析側試協会の協力により BCEIA 2015 にて、第 6 回日中科学機器発展フォーラムを開催。
  - ④ シンガポール Separation Science 主催 Food Science 2015 に参加。
  - ⑤ 展示会 BCEIA (中国)、Korea lab (韓国)、Thailand lab (タイ)、analytica Vietnam (ベトナム)、LabAsia (マレーシア) にて小間出展。
- 3) 海外展示会主催団体との交流推進  
 米国 Pittcon Committee、ドイツメッセミュンヘン(analytica Vietnam)、韓国 Kyungyon Exhibitoin Corporation (Korea lab)、台湾 TEEMA(TAITRONICS)、マレーシア ECMI ITE Asia Sdn Bhd(LabAsia)、と展示会出展時にミーティング実施。
- 4) 新規友好協力団体の開拓  
 新規友好協力団体の開拓を目的として、Food Science (10 月・シンガポール)、CPhI&P-MEC India (12 月・インド) に参加し、主催団体との交流を行った。TEEMA (6 月・台湾) との交流を行い、今後の連携に関して意見交換実施。
- (2) 海外への情報発信とプレゼンス向上  
 海外展示会等において新技術発表セミナー、フォーラム等を開催した。
- 1) Pittcon 2016 (米国) にて Japan Symposium を開催した。(3 月)
  - 2) BCEIA 2015 (中国) にて日中科学機器発展フォーラムを開催した。(10 月)
  - 3) Food Science 2015 (シンガポール) に参加し、今後の JAIMA 主催のフォーラムに関する情報収集を行った。(10 月)
  - 4) Arab Lab での JAPAN パビリオン実現に向けて JETRO との協議を行った。
  - 5) HIDA (一般財団法人海外産業人材育成協会) からの受託事業「ASEAN における産業開発を支援する高度な機器分析の人材育成プログラム策定業務」の支援を行った。(タイ及びベトナムセミナー運営支及びホーチミンセミナー企画支援。4 月、8 月)
- (3) JASIS のグローバル化とアジアのハブ展化
- 1) 海外展示会に出展し JASIS 出展・来場勧誘  
 analytica Vietnam (4 月・ベトナム)、Korea Lab (4 月・韓国)、Thailand lab (9 月・タイ)、BCEIA (10 月・中国)、LabAsia (10 月・マレーシア)、Pittcon (3 月・米国) に参加し、JASIS 出展・来場勧誘を実施した。新規展示会として Food Science (10 月・シンガポール)、P-MEC India (12 月・香港) に参加し、今後の協力関係について意見交換を行った。
  - 2) アジア友好協力団体を通じた JASIS 出展・来場勧誘  
 シンガポール、ベトナム、タイ、台湾、中国、韓国、インドネシアに出張し JASIS 出展勧誘・派遣要請等を行った。
  - 3) 海外出展社・来場者へのインセンティブによる出展・来場誘致  
 JASIS 2015 海外出展企業 27 社 (33 小間)、海外団体 11 機関 (11 小間)。  
 海外来場者：615 名 (前年比 113%)、うちアジアからの来場者は、525 名 (前年比 125%)。内訳：韓国 265、中国 114、台湾 72、アメリカ 37、タイ 21、シンガ

ポール 15、ベトナム 15、ドイツ 9 など。

MOU 締結団体等に対する JASIS への初出展社に対する出展参加の Special Offer について検討し、JASIS 2016 に関する内容を取りまとめた。(米国大使館の紹介団体に対しても適用予定)

(4) 先端診断領域への取り組み

- 1) JASIS 委員会プロジェクト小委員会に参画し、先端診断イノベーションゾーンの海外基調講演者招聘の支援を行った。(ALDA 会員企業関係者他)
- 2) 英国大使館貿易投資部ライフサイエンス担当との連携により、英国ライフサイエンス系企業向けの Webinar を開催した。(日本市場への進出、日本企業との提携、JASIS への勧誘等)
- 3) Food Science (シンガポール) に参加し、今後のフォーラム開催に関して意見交換を行った。

(5) 輸出管理に関する情報収集と啓蒙活動 (輸出管理小委員会)

1) 安全保障貿易管理説明会開催

東西 2 か所で開催した。1 月 22 日東京 (国立近代美術館) : 136 名参加、2 月 19 日京都 (島津製作所) : 119 名参加。

2) 輸出管理小委員会セミナー開催

中国軍事四証制度についての勉強会として開催。(3 月 25 日 参加者 24 名)

3) 会員向けセミナーとして、安全保障輸出管理実務能力認定試験 (STC Advanced 試験向け勉強会) を開催した。(6 月、8 月、10 月)

(6) 海外市場における分析市場調査

海外展示会での実地調査を行った。

## 7. 医療機器委員会

(1) 医機連(一般社団法人日本医療機器産業連合会) 各種委員会および関連 WG 活動に参画し、会員会社に情報および資料を配布した (6 回)。また、適時、会員の意見を収集し関連委員会に報告した。

(2) IVD-MD 会議を開催 (6 回) し、情報の共有と共通課題について議論を行った。また IVD 地位向上 WG を開催 (6 回) し、施策を審議した。

(3) 動物用医療機器小委員会を開催 (5 回) し、その内 4 回は動物用医薬品部会と合同で開催し、臨薬協との連携強化を図った。また、関連団体・農水省との情報交換会を開催し、動物用医療機器の規制に関して意見を交換した。

(4) 測定装置コード表の改訂を行い、HP に掲載 (8 月、3 月) した。新コード表の提供を日本医師会 (6 月)、大阪府医師会 (8 月)、日本衛生検査所協会 (10 月)、日本臨床衛生検査技師会 (1 月)、日本総合検診医学会 (1 月) へ行った。

(5) 医機連 EMC 分科会 (6 回)、安全 EMC 規格小委員会 (4 回) を開催し、情報の共有と共通課題を議論した。また、IEC/TC66 エッセン会議 (4 月) へ参加し、規制動向の調査を行った。

(6) 医療機器国際小委員会を開催 (6 回) し、情報の共有と共通課題について議論した。

OMETA、JACR I との体外診断関係三団体アジア WG を開催し (5 回)、アジアビジネ

スの情報交換と共通課題について議論をおこなった。また、医機連国際政策戦略委員会、アジア分科会、国際法制分科会に委員を派遣し、その情報共有を行った。現地工業会 (ThaiMed) との交流を進めるための出張等を計画し、AHWP 参加と合わせて実施した。

(7) ISO/TC212 国内会議 (JCCLS 主幹) に参加し、ベルギー国ブリュッセルにて開催された TC212 全体会議の内容を討議した。WG3 で IVD 専用の臨床評価が新規規格提案となり、2015 年 11 月にベルギーで開催された ISO/TC212 WG3 で審議が開始された。2018 年完了の予定で進めている。

(8) EDMA/AdvaMed/オーストラリア/臨薬協他が参加する GDIAM、フォーラムを臨薬協と共催した (5 月：日本)。IVD の価値向上策、IMDRF、コンパニオン診断、欧米での承認・診療報酬の状況他について情報を交換した。JAIMA ホームページに英語サイトを立ち上げ、GDA から参照できるようにした。

(9) JASIS メディカルイノベーションゾーン設置への協力と会員企業への情報提供を行った。

(10) 勉強会/セミナーの開催

第 1 回：企業見学会 (オリエンタル酵母工業 (株)) 6 月開催。

第 2 回：法規制セミナー 2 月開催。

第 3 回：先端診断イノベーションセミナー 3 月開催。

(11) 医療機器業公正取引協議会 分析工支部

・ 定期支部会 6 回開催 (4, 6, 8, 9, 12, 2 月)

・ インストラクター養成研修会開催 (8 月)、分析工支部会員 57 名/合格者 44 名 (合格率 77%)

・ 規約小冊子を改訂した。

(12) 医療機器公取協ホームページ全面改訂、28 年 4 月公開予定。JACLaS EXP02015 (10/8-10) で周知活動を行った。

## 8. 広報委員会

(1) インターネット関係

1) (Web サイトリニューアル) Web 分析総覧の検索機能の改良を実施した。JAIMA Web リニューアル計画の第 1 フェーズを完了した。平成 28 年度は Web 分析総覧の本格的なリニューアルの内容検討、JAIMA Web のリニューアル (第 2 フェーズ) を実施する。JAIMA Web を中心として、JASIS web、Web 分析総覧 3 サイトの連携を促進する。

2) (情報発信力の向上) 運用フローおよび管理システムの改善、リソースの最適配置により、Web サイトの早く正確な情報更新を実施した。

3) (グローバル化対応として) 会員向けメールマガジン「JAIMA 通信」を平成 27 年 7 月に創刊。年度内に 8 回の発信を行った。今後も月刊で発行するとともに、会員受信者の拡大に向けて検討中。

(2) 会報関係

1) (刊行実績) 年間 4 号を遅滞なく発行。平成 28 年度から、より読みやすい情報

発信を目指し、誌面や企画リニューアルを検討する。

### (3) プレス関係

- 1) (プレスリリース実績) 日本語 12 件、英語 5 件、中国語簡体字 1 件、中国語繁体字 1 件。
- 2) (JAIMA web へのニュース掲載実績) 日本語 34 件、英語 9 件
- 3) (掲載実績) Web 媒体 357 件、紙媒体 87 件に掲載。Web 媒体掲載の広告費換算額 435 万円 (@press 調べ、3 月末まで、海外配信分は除く)  
昨年と比較して紙媒体への掲載数が前半 6 か月だけで昨年一年間の数量を上回った。過去 2 年間のプレスリリース強化及び、メディアリレーションが成果として顕著になるよう、来年度以降も継続してプレスリリースに力を入れる。

## 9. 展示会委員会

- (1) 9 月 2 日～4 日、幕張メッセ国際展示場 (4・5・6・7・8 ホール) にて、JASIS 2015 を開催した。「分析展／科学機器展」から「JASIS」へと名称変更後、4 回目の開催となった。498 社・機関が 1,473 小間が出展し、出展規模として 2 年連続で過去最大となった。来場者数は、23,408 名と、昨年を 1.6% 下回ったものの、「分析機器・科学機器ユーザー」数は JAIS と改称した 2012 年以降で最も多い 12,235 名 (全来場者の 52.3%) を記録した。全来場者の過半数がユーザーであるという特長は継続することができた。
- (2) 新技術説明会、JASIS コンファレンス (技術委員会、環境委員会他との連携事業)  
新技術説明会は、360 テーマと、4 年連続過去最大規模を更新。聴講者数は延べ 17,500 名となり、昨年比 25.7% 増となり過去最大を記録した。  
JASIS コンファレンスは、過去最大規模となり、当工業会を含め 30 の学協会により 52 のセッションが行われた。延べ聴講者数は 4,070 名となった。
- (3) 「“先端診断” が切り開く “ライフサイエンス” の新世界」をテーマに、展示会場内に「先端診断イノベーションゾーン」を設置 (JASIS 2013 「メディカルイノベーションゾーン」の発展企画)。従来の「先端診断」に加え「創薬」「未病」「フードサイエンス」を取り上げ、国内外の最新情報を提供し、新しいライフサイエンス市場への参入を計画する企業、大学、公的機関、海外企業などの参加を呼び掛けた。ゾーン総来場者数は目標の 5,000 人を超え好評を博し、JASIS の総来場者数増にも貢献した。
  - 1) 国内外から著名な講師陣を招いての基調講演を 35 件実施し、聴講者数延べ 3,209 名を得た (昨年 17 件 2,408 名)。
  - 2) 出展社 25 社による 29 タイトルのセミナーは、聴講者数延べ 615 名を得た (昨年 19 社 22 タイトル)。企業展示では 53 社 69 小間の出展を得た (26 社 33 小間)。アライアンスを促進するため、商談ゾーンを設置した。
  - 3) 「ビッグデータとインフォマティクス～人間の認知限界を突破するために～」と題し、特別展示を設置した。
  - 4) ゾーン内以外の関連企画として、JASIS コンファレンスにおいても、先端診断イノベーションフォーラムと題し、未病、BD2K など健康・医療に関する 4 つ

のプログラムを実践し、201名の参加者を得た。

- 5) JASIS会期前(3月、6月)に、先端診断イノベーションゾーンへの来場を促進するために先端診断イノベーションセミナーを実施した。(3月実施分は医療機器委員会との連携事業)
  - 6) 新規販路開拓ツールとして、新規格「販売チャンネルセミナー」を5社5タイトルで実践し、29名のディーラー来場者の参加を得た。会期後に、セミナー動画をJASISに公開し、2ヶ月余りで計700回程度の閲覧を得ている。
- (4) 関西新技術説明会将来ビジョンの検討
- JASIS 中期戦略検討特別委員会にて、JAIMA 内の「関西新技術説明会含めたJASIS のサテライト展開」に関する意見集約中。
- JAIMA 内の意見取りまとめ次第、JSIA と意見のすり合わせを行い、方針を検討したい。
- (5) その他
- 1) 例年通り国際委員会と連携し「International Organization Area」を開設した。
  - 2) 小規模出展社の要求に応えるため、mini/ソリューションコーナーを設置。36社47小間の出展を得た。
  - 3) 科学技術振興機構による8回目の展示として、16小間の出展を得た。また、産業技術総合研究所 標準・計測分野から5小間出展を得た。これは昨年につき5回目となる。これらの展示に積極的に協力することで、最先端の分析技術の開発・発展に対して一定の役割を果たした。
  - 4) 来場者増加のためのメールマガジンを13回配信した。
  - 5) 2012年度から、当工業会発行の「分析機器総覧」と日本科学機器協会発行の「科学機器総覧」が合本し「科学・分析機器総覧」となった。JASIS展示会場では、従来のB5版1,500部に加え、今年初めてA5版7,000部を無料配布。CD-ROM版も昨年引き続き3,000部を無料配布した。これとは別に、当工業会発刊の「分析機器の手引き」もJASIS会場で計1,500部を配布した。
  - 6) 海外への「JASIS」浸透を図るため海外展示会においても JASIS ブース等をつけてPR活動を行っているが、展示会委員会としては、経費節減の為、委員の派遣を行わなかった。また、海外メディアとのコラボによる JASIS のアジア地区へのプロモーションを展開するための活動を始めた。

## 10. 統計委員会

- (1) 4半期ごとの生産高、輸出高統計を分析し、その結果を会報に掲載した。
- (2) 日米欧受注統計  
受注統計小委員会として、JAIMA-ALDA-Eurom II 合同受注高統計を推進している。
  - 1) JAIMA - ALDA 合同受注高統計を維持管理した。35社(JAIMA 15社、ALDA9社、Eurom II 11社)の参加を得ている。
  - 2) 以下のとおり日米欧の企業の合同統計を四半期毎に集計した。
    - ① 主な集計項目：ア) 世界6地域におけるラボ分析機器ビジネスの総受注額

イ) 世界 6 地域における対象機種を受注金額及び台数

② 地域：北米、欧州、日本、中国、インド、その他の 6 地域

③ 対象 11 機種：GC、GCMS、LC、LCMS、UV、AA、FT-IR、TOC、蛍光、ICP、ICP-MS

④ 参加企業：35 社（JAIMA 15 社、ALDA 9 社、Eurom II 11 社）

### (3) 新統計システム導入に向けての準備

昨年 4 月 15 日開催の第 1 回理事会において「JAIMA 市場統計管理システム運用規定」が制定された。これを受け、統計委員会から技術、医療機器、各委員会への項目見直しなどの依頼を行い、平成 28 年 4 月からの運用に向け、準備を行った。

## 1 1. International Conference (IC) 特別委員会

Pittcon 2016 にて開催される Technical Program の一セッションとして、Japan Symposium 2016 を開催した。「ナノバイオ及び先端診断」をテーマに産学それぞれ 5 名による講演は、累積で 100 名以上に聴講していただくことができた。8 回にわたって開催してきた本企画は今回で一旦終了させ、2017 年からは、Pittcon Committee との連携を継続させつつ、新たな企画によるセッションに移行する計画である。

この他、2015 年度は、JASIS 2015 にて International Conference Session (ICS) 2015 として、U.S. Symposium (Pittcon Committee)、アジアテクニカルフォーラム (VINALAB 他)、英国王立化学会 (RSC) 東京インターナショナルコンファレンス (英国王立化学会)、韓国フォーラム (KRISS、ソウル国立大学)、中国フォーラム (中国分析測定協会) を開催した。( ) 内は連携先。アジアテクニカルフォーラム、中国フォーラムは国際委員会と連携。

前年度に続き、2015 年度の国際会議実態を調査し、とりまとめた。また、今後の国際会議に関しては、重点国際会議の深耕、拡大を進めるべきことを提言した。

IC 特別委員会は、今後、技術セミナーの企画・運営は技術委員会に、海外における展示会の企画・運営は国際委員会に、国際活動の戦略立案は企画戦略会議に移管されるべきとの提言を行い、2015 年度をもって活動完了とする。

## 1 2. ADP 特別委員会

ADP (Advanced Diagnostics Project) 特別委員会は 2013 年 12 月に発足し、先端診断領域に関わる分析機器の動向を見極め、いち早く工業会の発展につなげる中長期戦略をたて、業界としてのプラットフォームを形成するべく活動を行ってきた。

JASIS での展開を始め、セミナーの開催や勉強会を通じて、進むべき方向を企画立案すべく、技術委員会、環境員会、国際委員会、医療機器委員会、展示会委員会と連携しながら、今年度までに 16 回の委員会を開催した。

これまでに、JASIS における先端診断イノベーション企画との連携を進めながら、会員企業・新規加入検討企業向けの情報整理として、診断ニーズ表、事業化に向けた診断技術ロードマップ、診断装置事業化のステップなどについて検討を行ってきた。また、関連機関として、経済産業省、厚労省医療機器センター、神奈川県未病産業研究所などとのネットワーク形成をはかった。

これまでの活動を通じて以下の知見を得ることができた。

- ① 健康・医療領域の動向：産・官・学での健康・医療に寄与する活動活性化。“健康”に寄与する“ヘルスケア産業”と呼ばれる領域にはあらゆる産業からの参入が始まっている。“医療”に寄与する産業は、個別化・高度化した医療の提供に主眼に置き、より高度な技術を核にした事業展開が求められる一方で、国の科学技術政策やオープンイノベーション推進等により、新規産業・業界の参入も促進されつつ、着実な産業への移行が芽生えつつある。
- ② 健康・医療領域における分析機器産業の位置づけ：分析機器産業は、健康・医療戦略に寄与する事業展開において優位な立場にある。より高度な分析技術により、疾病治癒・健康増進に寄与することが求められる。
- ③ 他産業・異分野業種の動向：他産業（素材・電子・半導体等）が精力的にこの分野に乗り出してきており、ICT、IoT、ビッグデータ等の革新的技術の普及と、電子デバイス系産業の技術力向上により、センサとネットワークによる診断ソリューションが提供可能になっている。従来の臨床検査装置・分析装置のみでは分析機器産業は取り残される。

これらの知見から、単独企業の装置開発のビジネスモデルから、オープンイノベーションによるソリューション志向へ工業会全体としてのマインドチェンジをめざすために、JAIMAの取るべき方向性として、以下の提案を行った。

- ① 健康・医療分野における優位的な立場を生かし、これらの分野への事業展開の牽引役、なくてはならないパートを占める役割を果たす。
- ② 多彩なニーズや事業展開可能性に対し、新規参入の他産業とのコラボレーションを積極的に行う。
- ③ 他産業のポテンシャルやモチベーションも高く、ある意味では脅威となることも想定し、付加価値の高い牽引役としての役割を果たす。

また、分析装置及び診断装置を供給する立場で経済産業省医療機器産業政策に貢献すべきこと、他産業及び関連省庁と幅広く連携すべきことも提言した。次のステップとしての、健康・医療産業参入への環境作り、関係機関との連携の具体的な内容も明確にした。

さらに、会員企業個社単独では難しい業界・関係機関とのネットワーク形成、会員企業協働の未踏領域への展開促進のため、以下を目的とする「ライフサイエンス研究会（仮称）」の立ち上げを提案し、平成27年度第8回理事会において承認された。

- ・ライフサイエンス分野の動向理解とニーズ深耕
- ・ITとの融合による次世代のビジネスモデルの検討
- ・他産業・関係省庁との関係構築
- ・次世代ビジネスへの基盤教育とナビゲーション
- ・実践の成果発現としてJASISでの新企画の実施

本特別委員会は、この研究会の立ち上げをもって活動完了とする。

### 1 3. JASIS 中期戦略検討特別委員会

JASISの企画・運営に関する中期的課題を検討し方向性を打ち出すため、重要な項目



を抽出し、2018年4月までの3年間で検討を行うため、本委員会を立ち上げた。緊急を要する課題については優先的に検討し、必要に応じて理事会に報告することとして、検討を開始した。

これまでの状況は以下のとおり。

- (1) JASIS 特別企画の在り方：JASIS 2016 での開催に向けて、先端イノベーションゾーンの発展的継続、OSF(分野別新技術説明会)の企画等を提案。実施に向けて準備中。今後、実施状況の確認、振り返りを行う。
- (2) 展示会収支の在り方：JASIS 2016 より出展料及び新技術説明会参加料の改定を提案。2015年10月の理事会で承認され、実施済み。
- (3) 運営体制：評価が高い手弁当方式を堅持し、かつ新しい企画等を実行する上でも増員も含む事務局の強化は必要と提案。現在、事務局増員に向けての取組みを進めている。
- (4) 新たな来場者の把握方法：JASIS 2016 において、来場者の会場における動向を把握するための検討を行い、新システム導入に向けて準備中。
- (5) サテライト展開・バーチャル展示会など会期・会場にとられない新しい JASIS 企画の方向性：具体的な実現の仕方などについて、現在議論を進めている。
- (6) 科学機器と合同展になったことに対する評価、JSIA サイエンスエキスポ大阪とのコラボ&関西新技術説明会：検討中。

## VI. その他の事業活動概要

### 1. 生産・輸出入の動向調査

#### (1) 生産高、輸出高の調査及びその発表

正会員を対象に悉皆調査を実施、四半期毎及び平成26年度合計の発表を行った。

#### (2) 輸入高、国別輸出入の調査

財務省貿易統計に基づき、分析機器関係類別を抽出、各月別輸入高、国別輸出入高を調査し、理事会に報告した。

### 2. 分析機器工業の経営実態調査

会員の企業規模等実態調査を実施した。また、正会員中7社を対象に、需給動向速報を目的に5項目(生産、出荷、在庫、受注、受注残)について調査を実施、理事会に報告した。

### 3. 計量法の普及、計量行政施策の実施に対する協力

#### (1) 計量行政審議会等への参加

計量行政審議会及び同審議会計量標準部会に協力した。

#### (2) 国際法定計量機関(OIML)関係委員会への協力

1) OIMLの国内委員会である産業技術総合研究所国際計量研究連絡委員会に専務理事が参加した。

2) (一社)日本計量機器工業連合会国際法定計量調査研究委員会に専務理事が参加したほか、汚染度計量器(TC16)、物理化学測定器(TC17)及び医療用計量器(TC18/SC4)に委員参加した。

### 4. その他行政諸施策及び他団体事業への協力

- (1) (一財)安全保障貿易情報センター (CISTEC) の出捐団体となっており、会長が評議員を務めている。安全保障輸出管理委員会には専務理事が参加した。
  - (2) 日本工業標準調査会 (JISC) の化学・環境技術専門委員会に臨時委員として職員を派遣している。
  - (3) 他団体の JIS 等関係調査事業、ISO/IEC 関係委員会、理事会等への協力は、別紙 5 のとおり。
  - (4) 経済産業省、厚生労働省関係の各種通知、公募情報、各種表彰制度募集、各種法規制関連情報等について、ホームページ掲載、会報掲載、メール送信により会員に周知した。
5. 工業会ホームページの充実
- 会員ページでは、過去の記事の閲覧をしやすく改善したり、一般公開サイトでは、時系列リスト表示で閲覧しにくかった「医療機器ユーザーの皆様へ」の改善のほか、会誌発行に同期した記事の公開、「生産性向上設備促進税制」関連の情報更新など、一般に向け告知の改善を行った。
6. 分析機器に関する製品安全化事業
- PL 団体保険制度の事業を推進した。
- (1) 海外を対象とする「海外団体 PL 保険制度」の参加会員は 8 社。
  - (2) 国内を対象とする「国内団体 PL 保険制度」の参加会員は 19 社。
  - (3) CGL 保険 (企業総合賠償責任保険) の参加会員は 16 社。
7. 協賛名義等の使用承認
- 平成 27 年度は当工業会に対し 23 件の協賛名義等の使用許可を行った
8. 報告書等発行
- (1) 業務関係報告書
    - 1) JASIS 2015 結果報告書 (和文)
    - 2) JASIS 2015 FINAL REPORT (英文)
    - 3) International Conference Session , Extended Abstract (英文、CD)
    - 4) Japan Symposium , Extended Abstract (英文)
  - (2) JAIMA 環境規制関連セミナー&環境規制小委員会特別セミナー資料集 (CD)
  - (3) 「医療機器業公正競争規約」携帯版小冊子 (ポケット版)
9. [委員会の開催状況]は別紙 3、「委員会正・副委員長、小委員会主査等名簿」を別紙 4 に示す。

### 別紙3 委員会開催状況

1. 企画戦略会議	8回
IC 特別委員会	7回
ADP 特別委員会	8回
JASIS 中期戦略検討特別委員会	8回
新ソリューションタスクフォース	7回
2. 技術委員会	12回
企画運営小委員会	12回
3. 環境委員会	11回
環境規制小委員会	2回
JAIMAS 原案作成委員会（高圧ガス保安法関係）	2回
4. 労務委員会	4回
5. 知的財産委員会	5回
実務・調査小委員会	9回
6. 国際委員会	8回
輸出管理小委員会	5回
7. 医療機器委員会	6回
医療機器運営委員会	6回
薬機法小委員会	6回
標準・規格小委員会	2回
安全・EMC 規格小委員会	4回
IVD-MD 会議（（一社）日本臨床検査薬協会との会合）	6回
医療機器業公正取引協議会分析工支部 支部委員会	6回
医療機器国際小委員会	5回
動物医療機器小委員会	5回
8. 広報委員会	10回
会報編纂小委員会/ホームページ小委員会/プレスリリース小委員会	
合同拡大会議として	4回
9. 展示会委員会	12回
展示小委員会	11回
展示広報小委員会	11回

新技術説明会・イベント企画小委員会	5回
新技術説明会・新ソリューション説明会企画小委員会	5回
プロジェクト小委員会	11回
10. 統計委員会	4回
受注統計小委員会	2回
11. 委託事業関係委員会	
赤外分光分析方法通則 JIS 原案作成委員会	6回
	合計 235回

別紙4 委員会 正・副委員長、小委員会主査等名簿

平成27年度 常設委員会正・副委員長、小委員会主査等名簿

常設委員会名		氏名 (所属)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画戦略会議</li> <li>・グローバル化特別委員会 (終了)</li> <li>・IC 特別委員会 (終了)</li> <li>・ADP 特別委員会 (ライフサイエンス市場研究会へ改組)</li> <li>・JASIS 中期戦略検討特別委員会</li> </ul>	正	禰寝義人 (日立ハイテクノロジーズ)
	副	山下泰生 (堀場製作所) ⇒大井泉 (日本電子)
	〃	森安里志 (島津製作所)
	主査	大井泉 (日本電子)
	主査	松田耕一郎 (堀場製作所)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術委員会</li> <li>・企画運営小委員会</li> <li>・将来技術小委員会</li> <li>・技術普及小委員会</li> <li>・会合企画小委員会</li> <li>・分析技術アジア展開検討委員会</li> </ul>	主査	森安里志
	主査	大井泉 (日本電子)
	正	杉沢寿志 (日本電子)
	副	内田稔 (日立ハイテクノロジーズ)
	〃	長谷川勝二 (日本分光)
	〃	野村聡 (堀場製作所)
	〃	西埜誠 (島津製作所)
主査	杉沢寿志	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境委員会</li> <li>・環境規制小委員会</li> <li>・規格標準化小委員会</li> <li>・技術・情報小委員会</li> <li>・国際規制小委員会</li> </ul>	〃	西埜誠
	〃	長谷川勝二
	〃	内田稔
	〃	杉沢寿志
	正	松田耕一郎
<ul style="list-style-type: none"> <li>・労務委員会</li> </ul>	副	河合英治 (日本電子)
	〃	近藤宏 (日立ハイテクノロジーズ) ⇒未定
	〃	中川勝博 (島津製作所)
	主査	松田耕一郎
	〃	近藤宏⇒中川勝博
<ul style="list-style-type: none"> <li>・労務委員会</li> </ul>	〃	牧重明 (ジーエルサイエンス)
	〃	河合英治
	正	西川徹 (堀場製作所) ⇒田崎克也 (アジレント・テクノロジー)
	副	青山恵則 (島津製作所) ⇒代見敬一郎 (東亜ディーケーケー)
	〃	田崎克也⇒坂口亨 (京都電子工業)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的財産委員会</li> <li>・実務・調査小委員会</li> </ul>	正 副 〃 主査	井上二三夫（シスメックス） 中野博司（島津製作所） 鎌田世津子（東亜ディーケーケー） 中野博司（島津製作所）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際委員会</li> <li>・輸出管理小委員会</li> </ul>	正 副 〃 主査	川本健志（島津製作所） 坂西祥一（堀場製作所） 遠藤政彦（アジレントテクノロジー） 原 囿 聡（島津製作所）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機器委員会</li> <li>・薬事法小委員会</li> <li>・標準・規格小委員会</li> <li>・安全・EMC小委員会</li> <li>・医療機器業公正取引協議会分析工支部</li> <li>・医療機器国際小委員会</li> <li>・動物医療機器小委員会</li> </ul>	正 副 〃 主査 〃 〃 正 副 主査 〃	佐藤 剛（日立ハイテクノロジーズ） 川中士郎（日本電子） 鈴木一弘（島津製作所） 西村裕之（サクラファインテックジャパン） 河端俊彦（東芝メディカルシステムズ） 野上信吾（ベックマン・コールター） 藤野清孝（日本電子）⇒中山剛（日本電子） 白子紀巳（シスメックス） 関口幸児（パナソニックヘルスケア） 船橋真人（富士フィルム）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報委員会</li> <li>・会誌編纂小委員会</li> <li>・ホームページ小委員会</li> <li>・プレスリリース小委員会</li> </ul>	正 副 〃 〃 主査 〃 〃	前野晃男（堀場製作所） 真鍋伸一（島津製作所） 石塚隆司（東亜ディーケーケー） 矢尾板憲一（リガク）⇒未定 石塚隆司 真鍋伸一 矢尾板憲一⇒未定
<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示会委員会</li> <li>・展示小委員会</li> <li>・新技術説明会・新ソリューション説明会小委員会</li> <li>・展示広報小委員会</li> <li>・プロジェクト小委員会</li> </ul>	正 副 〃 〃 〃 主査 〃 〃 〃	野元政男（日本電子） 田中隆司（島津製作所）⇒若尾豪（島津製作所） 長谷川武義（堀場製作所） 五十嵐真人（日立ハイテクノロジーズ） 金子静知（メルク） 田中隆司⇒若尾豪 長谷川武義 金子静知 五十嵐真人

・統計委員会	正	松村幸彦（日本分光） ⇒伊藤憲治（日立ハイテクサイエンス）
・受注統計小委員会	副 主査	伊藤憲治 川本健志